

日 時	令和5年10月3日(火) 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	特定事件9 児童福祉の推進について ・子育て日本一を目指した各種施策について
視 察 概 要	<p>児童福祉の推進・子育て日本一を目指した各種施策について</p> <p>◎説明者：大垣市こども未来部子育て支援課</p> <p>◎大垣市：人口158,296人 平均年齢45.7歳</p> <p>◎人口推移：年少人口が減少、老年人口が増加→少子高齢化が進行 出生数は平成24年をピークに減少だが、母親の社会復帰の早期化で2歳以下の保育ニーズが増加し、幼児教育・保育の新たな課題対策として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け皿の確保 保育園・幼稚園の拡充 全440園 待機児童0 ・質の高い幼児教育・保育、保育士不足対策 保育士確保事業、引っ越し費用補助10万、保育士準備費用10万 アパート入居費5万。いずれも上限。 潜在保育士復帰支援セミナー ・仕事と子育てができる環境整備 保育業務支援システム導入 欠席連絡 地域子育て支援拠点を市内8か所に開設し、子育て不安・悩み相談 ・発達支援について ライフステージを通して一貫・継続した支援体制は乳児・幼児期から小・中・高校、成人期まで途切れのない支援を行っている。 <p>◎発達支援の主な事業：スマイルブックを活用し、予約出張型支援、視覚機能相談会、園・学校訪問など。児童発達支援費は7.5億円 発達支援講演会、学習会、ペアレントプログラム・トレーニング講座、親子運動教室など、パンフレットを作成、配布し啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市子育て支援条例により子供が健やかに育ち、安心して子育てできる「子育て日本一のまち」を目指し条例を制定し、施策を実施

	<p>中。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンゼルサポーター 2. 家庭訪問型子育て支援ホームスタートは国の施策では、支援できない家庭へ市事業などでサポートしています。 3. 親子バス支援 4. 多胎家庭お出かけ支援 5. 出産祝金 3子以降 5万円 6. 子ども医療費助成 7. 養育費手続支援など <ul style="list-style-type: none"> ・施策の評価・改善は、子育て支援会議 15名、学識経験者、子育て識見者、その他で評価改善をしている。 ・大垣市の『こどもまんなか応援サポーター宣言』 ずっとずっとたくましく生きる こどもをはぐくむための環境づくりを行います。 <p>◎子育て世代への移住・定住への取組</p> <p>子育て世代へ、新築 30万円、中古改築 30万円、親元に転居 6万円、移住定住活動支援 6万円、東京圏から移住 100万円、保育者スタート応援 20万円支給。いずれも最大金額。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>大垣市は少子高齢化の中、人口減少に本当に取り組んでいる。</p> <p>子育て日本一を目指しているこども未来部子育て支援課の名の通り、9年間取り組んだ課長には敬服する。</p> <p>発達支援施策は当市も学ぶところがあり、今後の議会活動に活かしたい。</p>

文教厚生常任委員会委員長 赤松 祐造

<p>日 時</p>	<p>令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分</p>
<p>視 察 先</p>	<p>愛知県豊橋市</p>
<p>視 察 目 的</p>	<p>特定事件 8 社会福祉の推進について 特定事件 9 児童福祉の推進について 特定事件 20 青少年健全育成について ・こども若者総合相談支援センター</p>
<p>視 察 概 要</p>	<p>こども若者総合相談支援センターココエールについて ◎説明者：センター長及び副センター長</p>

◎豊橋市：人口 約 37 万人、約 16 万世帯

面積約 262 平方キロ内、外国人約 1 万 8 千人、約 9 千世帯

◎相談支援体制：0 歳から 39 歳までの、妊娠・出産から子育て、自立までの切れ目のない相談支援体制を構築している。

- ・ココエールはここからエールを送り支援するという意味
- ・センター設置までの経緯

平成 17 年度の要保護児童対策地域協議会から平成 22 年度教育委員会の子ども・若者支援地域協議会を設置

平成 27 年度から機構改革により上記両方の機能をこども未来部が所管、平成 29 年度こども若者総合相談支援センターの設置

◎ココエール相談件数 令和 4 年度 2,337 人

〃 職員体制 令和 5 年度 臨床心理士 4 人
社会福祉士 4 人 保健師 2 人
児童相談派遣者 2 名
教員資格 2 名

◎居住実態の把握：把握できないまま、死亡事例に至った背景・状況

- ・要保護児童対策地域協議会

毎月約 300 人の進捗管理、支援方針の検討等を実施。初期の対応が大切、警察も参加。

- ・子供真ん中で将来の親を育てる。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問事業：民生委員・児童委員に情報提供
子育て家庭に民生委員・児童委員を知ってもらうこと、地域における見守りの意識を高めてもらう目的。
- ・怒鳴らん子育て講座の 3 日間講座
- ・定時制・通信制高校合同説明会
- ・不登校中学生、高校生の進路指導年 2 回 夏の時期は 200 名参加
ケアリーバー（施設退所児）支援 里親案内・社会的養護から自立
ヤングケアラー支援 支援コーディネーター・巡回相談員が学校訪問。家事支援を実施、スキルアップを図る講座開催、支援ガイドブック、居場所支援他
- ・民間団体委託によるホームスタート事業：週 1 回訪問家事、育児をして過ごす家庭訪問型支援 令和 4 年度 110 回

今年度は公募型プロポーザルで委託先の民間団体を募集

3 年契約、3 人で継続的相談支援活動をしやすくする。

	<p>子ども・若者の相談に来られるのは母親 50.6%</p> <p>◎今後の課題：人材確保・育成・専門性の維持 来期は臨床心理士を増やす等、児童相談所の設置、今後もこども家庭庁の取組を注視、本市にあ合った施策を推進</p>
所見及び所感	<p>ココエールは、よく考えて支援体制が作られており、説明されたこども未来部の副センター長の知見には敬意を表す。とても勉強になった。今後の当市の施策に生かされるよう議会で提言したいと思う。</p>

文教厚生常任委員会副委員長 伊藤 妙子

日 時	令和5年10月3日（火） 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	<p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>・子育て日本一を目指した各種施策について</p>
視 察 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大垣市議事課挨拶 2. 赤松委員長挨拶 3. 「子育て日本一を目指した各種施策について」 …こども未来部子育て支援課 4. 質疑、応答 5. 伊藤副委員長挨拶 6. 議場・庁舎内見学
所見及び所感	<p>①人口変化や保育ニーズの変化などを調査し、未就学児が10年前より2割も減少。その中でも0～2歳の保育ニーズは増加している。背景として、核家族化・母親の社会復帰の早期化と分析。その上で、以下、(1)保育園・幼稚園・幼保園・認定こども園、(2)地域子育て支援拠点、(3)発達支援の整備をされている。</p> <p>➤保育ニーズの高まりに対して、保育園、幼稚園、幼保園全40園を整備し、生後2か月からの乳児保育を28園で、33園で延長保育、5園で障害児保育、4園でことばの教室など、多様なニーズへの対応まで。さらに、保育士不足に対し、平成29年から、引越し・就職準備金の応援事業や潜在保育士等を対象に職場復帰セミナーを実施。</p> <p>地域支援拠点を8か所開設し、子育て中の親子が気軽に集い、交流、相談にも対応。</p>

	<p>発達支援については、乳児期から一貫・継続した途切れのない専門支援を行っている。保護者が作成・保管する「スマイルブック」を作成・配布し、小・中学校入学前に「スマイルブック引継ぎ会」を実施。</p> <p>②子育て日本一に向けて 大垣市子育て支援条例を制定し、9つの独自施策の実施。</p> <p>以上の説明内容において、充実した子育て支援は子育て期に寄り添った素晴らしい取組だと思った。また、9つの独自施策の中でも、家事・育児のサポート、親子バス支援、多胎家庭おでかけアシストタクシーは、バスやタクシーでお出かけしやすくするというよい支援サービスだと思う。その他、第3子以降の出産祝金、高校生世代までの子ども医療費の助成、養育費手続支援など、充実した経済支援が細やかに行われていて、平成17年当時の市長が「子育て日本一」を目指すと宣言されてから信念を貫かれ、ずっと引き継がれてきたことで築かれたものだと思った。</p> <p>わかりやすく作成された小冊子も、子育て期の夫婦が手に取りたくなるようなデザインで、素晴らしいと思った。</p> <p>またアプリやメール、ポータルサイトによる情報発信は、本市でも利用できるものがあると思う。</p> <p>最後に、議場や庁舎内を見学させていただき、とても参考になった。</p>
--	---

文教厚生常任委員会副委員長 伊藤 妙子

日 時	令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	特定事件8 社会福祉の推進について 特定事件9 児童福祉の推進について 特定事件20 青少年健全育成について ・こども若者総合相談支援センター
視 察 概 要	1. 赤松委員長挨拶 2. センター長挨拶 3. 副センター長説明 4. 質疑応答

	<p>5. 豊橋市議会 小原副議長挨拶</p> <p>6. 伊藤副委員長挨拶</p> <p>7. 玄関口にて写真撮影</p>			
<p>所見及び所感</p>	<p>【所見】</p> <p>(1) こども若者総合相談支援センターの組織体制</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> 要保護児童G・庶務担当 心理G 民間委託の支援担当 </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;"> 年々専門の資格を持つ職員が 増加 ＊児童相談所派遣経験者も </td> </tr> </table> <p>(2) 平成 17 年から児童福祉担当課にて、要保護児童対策協議会設置し、平成 22 年度に教育委員会が子ども・若者支援地域協議会を設置、平成 23 年度から子ども・若者総合相談窓口を設置し、困難を抱える子ども・若者の相談支援を実施してきた。そして不登校・中退・ひきこもりなどの対策も必要となり、平成 29 年 10 月に、こども若者総合相談支援センターが作られた。</p> <p>(3) 0 歳から 40 歳までの子ども・若者に寄り添う支援</p> <p>こんにちは赤ちゃん訪問事業、怒鳴らん子育て講座、ケアリーバー（施設退所児）支援、ヤングケアラー支援、居場所支援、家事支援など、多くの民間委託業者と連携し、支援している。</p> <p>【所感】</p> <p>有資格者をそれぞれ複数人置くことにより、認識を共有でき、進めやすいとの貴重なお話を聞くことができた。</p> <p>昨年度の相談者 808 人の内訳として、相談対象者は 20～30 歳代までと幅広く、一方で相談者の半数は、母親となっている。</p> <p>当事者が相談に来られるような工夫にも取り組まれているが、実態としては難しいと思った。</p> <p>若者の就労支援に取り組む、とよはし若者サポートステーションとも連携されており、重層的に支援されているのが素晴らしいと思った。</p> <p>今後も期待されるココエールの取組に注視したいと思う。</p>	要保護児童G・庶務担当 心理G 民間委託の支援担当	}	年々専門の資格を持つ職員が 増加 ＊児童相談所派遣経験者も
要保護児童G・庶務担当 心理G 民間委託の支援担当	}	年々専門の資格を持つ職員が 増加 ＊児童相談所派遣経験者も		

文教厚生常任委員会委員 片山 義久

日 時	令和 5 年 10 月 3 日（火） 13 時 30 分～15 時 30 分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	特定事件 9 児童福祉の推進について

	<p>・子育て日本一を目指した各種施策について</p>
<p>視 察 概 要</p>	<p>子育て日本一を目指した各種施策について、大垣市こども未来部子育て支援課の課長から御説明を頂いた。</p> <p>大垣市では平成24年をピークに出生数が減少、少子高齢化の進行と人口の緩やかな減少が続いている。</p> <p>平成22年に「子育て日本一のまち」を目指し、「大垣市子育て支援条例」を施行した。条例に基づき「子育て支援計画」を策定、「子育て支援会議」を設置し、子育て日本一に向けた施策を行うとともに、市子育て支援事業の実施状況の評価も行っている。</p> <p>ファミリーサポート事業では支援できない家事・育児の援助も行う、市独自の「エンゼルサポーター」、「家庭訪問型子育て支援ホームスタート」。親子でのお出かけを支援する「親子バス利用支援」、「多胎家庭おでかけアシストタクシー」。経済的支援として「出産祝金の支給」、高校生世代までの「子ども医療費の助成」、「養育費手続支援」。子供の育ち・子育てを社会全体で支える機運の醸成のための啓発活動「水都っ子ウィーク」。「子育て支援アプリ」や「おおがき子育て応援メール」、「子育てハンドブック」や、子育て世帯に向けた「多様な情報発信」など、様々な先進的子育て施策を次々と打ち出し、順次拡充している。</p> <p>市内8か所に地域子育て支援拠点を開設し、子育て中の親子が気軽に集い、相互に交流したり、子育ての不安・悩みを相談できる場として活用されている。</p> <p>発達支援にも力を入れており、乳児期から成人期までスマイルブックを活用して、ライフステージを通して一貫・継続した支援を行っている。</p> <p>また、潜在保育士の復帰支援セミナーの開催や保育業務をICT活用で支援するなど、保育士の待遇改善にも取り組まれている。</p> <p>令和2年に供用開始された真新しい市庁舎と議場も視察させていただいた。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>大垣市の取組を視察させていただき、市役所全体で「子育て日本一のまち」に取り組まれているのが感じられた。</p> <p>子育て世代の住宅支援事業や近居支援、東京圏からの移住支援事業、新たに市内で保育者として勤務する方に、就職準備費用や転入の引越し費用を補助する大垣市保育者スタート応援事業など、こども未</p>

	<p>来部以外の部署の事業でも子育てに力を入れていた。</p> <p>大垣駅前のキッズピアおおがき子育て支援センターや大垣公園プレーパークはNPO法人に業務委託されており、市民団体との協働によるまちづくりも進んでいる。</p> <p>子育て応援に関するパンフレットやおおがき移住・定住ガイドなど、若い世代を対象とする情報発信ツールのデザインのセンスがよいと感じた。施策の内容も重要だが、市民への見せ方もうまく、参考にできる点であると感じた。</p>
--	--

文教厚生常任委員会委員 片山 義久

日 時	令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども若者総合相談支援センター
視 察 概 要	<p>豊橋市こども若者総合支援センター「ココエール」にて、センターの設置経緯や事業の概要について伺った。豊橋市では平成24年にネグレクトにより4歳女児が死亡するという悲しい事件があり、その後の検証の中で市役所、保健センター、医療機関、学校間の情報共有がしっかり行われていれば防げた事件だったのでとの報告と、それに基づく再発防止策が打ち出された。平成27年の組織改編でこども未来部が誕生、福祉部、健康部、教育委員会と連携し、一体的に子供を守る体制が作られた。</p> <p>「こんにちは赤ちゃん訪問事業」では、民生委員・児童委員と連携し、赤ちゃんの生まれた家庭に祝い品（おしりふき）を持って訪問、子育て家庭の把握と地域における見守り意識を高めてもらう目的で実施している。民間団体への委託によるホームスタート事業や、要支援家庭ショートステイ事業、支援対象児童等見守り強化事業などを行っている。支援対象児童等見守り強化事業では、夏休み期間中に主任児童委員がお弁当を届けながら子供の状況把握を行い、見守りを強化するための宅食事業となっている。</p> <p>センターでは妊娠・出産から子育てまで、子育てから自立までの切れ</p>

	<p>目のない相談支援体制を構築しており、40歳未満の若者まで対象としている。不登校児への支援と高校中退予防のための定時制・通信制高校合同説明会や児童養護施設を退所したケアリーバーの支援事業、ヤングケアラーの支援などを行っている。</p>
所見及び所感	<p>豊橋市こども若者総合支援センター「ココエール」を視察させていただき、設置の経緯ともなった過去の悲しい事件を教訓に、子供、子育て世帯、若者に対して手厚い支援が行われているのを知ることができた。臨床心理士や社会福祉士、教員資格取得者など専門知識を持った職員が多く配置され、今年も増員がなされて児童相談、子供・若者相談に応えているというのが素晴らしいと思った。</p> <p>子供の支援というと一般的には18歳までの児童という制限があるが、豊橋市では40歳未満の若者までを支援の対象とし、相談支援や食料支援など、自立までをサポートしている点もよいなと思った。</p> <p>ヤングケアラーへの支援として家事支援や、ヤングケアラーに限らず、生徒が気軽に立ち寄り、声かけができる居場所づくりにも取り組まれているのも参考になった。</p> <p>ここからエールを送るという意味で名付けられたという「ココエール」の名称もいいですね。</p>

文教厚生常任委員会委員 内山 恵子

日 時	令和5年10月3日（火） 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	<p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て日本一を目指した各種施策について
視 察 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 大垣市の状況について（人口等の推移） 2 大垣市の子育て支援について <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育施設等の整備状況 (2) 地域子育て支援拠点について（子育て環境の変化や新たな課題に対応するため市内8か所に開設） (3) 発達支援への対応（ライフステージを通して一貫・継続した支援体制を行うために「スマイルブック」で途切れない支援） (4) 子育て日本一に向けた各種施策 <ol style="list-style-type: none"> ア 大垣市子育て支援条例

	<p>イ 独自施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンゼルサポーター（小学生までの家事・育児のサポート） ・家庭訪問型子育て支援ホームスタート ・親子バス利用支援（無料のバスチケット年4回まで） ・多胎家庭おでかけアシストタクシー（2万4千円分） ・出産祝金の支給（第3子以降の出産に対し5万円支給） ・子供医療費の助成（高校生世代までの医療費自己負担分） ・養育費手続支援（公正証書・調停証書作成に補助金） ・水都っ子ウィーク（機運醸成・啓発活動） ・多様な情報発信（子育て支援アプリ等） <p>（5）施策の評価・改善（子育て支援会議）</p>
所見及び所感	<p>大垣市の子育て支援施策には、和光市の施策と似たようなものもあるが、大垣市の場合は「子育て日本一のまち」を目指すことを明言し、予算もそれを具現化した構成となっていた。</p> <p>和光市は何を重視して予算編成しているのか、意思が十分に感じられないように思える。</p> <p>大垣市の「子育て支援」は和光市で実現させる意思があれば可能な施策がほとんどのように考える。</p>

文教厚生常任委員会委員 内 山 恵 子

日 時	令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども若者総合相談支援センター
視 察 概 要	<p>豊橋市こども若者総合支援センターの取組について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 豊橋市の概要、豊橋市役所の組織 2 豊橋市こども若者総合支援センター（ココエール）の体制 3 センター設置までの経緯 4 相談件数と職員体制の推移（平成24年に発生した女児の死亡事故の概要と教訓を受けて組織を拡充） 5 各種事業について

	<p>(1) こんにちは赤ちゃん訪問事業（民生委員・児童委員と連携）</p> <p>(2) 怒鳴らん子育て講座（親子支援プログラム）</p> <p>(3) 定時制・通信制高校合同説明会（不登校児への支援）</p> <p>(4) ケアラー支援（施設退所児への各種支援）</p> <p>(5) ヤングケアラー支援（コーディネーター・巡回相談員）</p> <p>ア 関係機関研修会</p> <p>イ ヤングケアラー向け支援ガイドブック</p> <p>ウ 居場所支援（高校生対象に居場所の提供）</p> <p>エ 家事支援（日常的な家事負担軽減のための支援）</p> <p>(6) ホームスタート事業（民間団体委託）</p> <p>(7) 要支援家庭ショートステイ事業（児童養護施設・養育里親）</p> <p>(8) 支援対象児童等見守り強化事業（見守り宅食事業）</p> <p>6 子ども・若者総合相談窓口について（複数年公募型プロポーザル方式により民間支援団体に委託）</p> <p>(1) 相談の特長（年齢とともに問題点は変化していく）</p> <p>(2) 今後の課題（人材の確保・質の確保・伴走型の支援の実現）</p>
所見及び所感	<p>様々な課題に対応するために職員体制を変化させ、専門職を採用し、それを生かすための組織づくり（臨床心理士、社会福祉士等を複数配置した理由「同じ言語で話せる」）に共感を覚えた。</p>

文教厚生常任委員会委員 松 永 靖 恵

日 時	令和5年10月3日（火） 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	<p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>・子育て日本一を目指した各種施策について</p>
視 察 概 要	<p>【子育て日本一を目指した各種施策について】</p> <p>1. 大垣市の状況</p> <p>人口の推移（都道府県別・年代別・出生数・未就学児・保育ニーズ）</p> <p>2. 大垣市の子育て支援</p> <p>(1) 保育園・幼稚園・幼保園・認定こども園</p> <p>多様なニーズへの対応に対しての対策として、保育士確保推進事業等</p>

	<p>(2) 地域子育て支援拠点 子育て家庭の環境の変化による新たな課題（親の孤立化、家庭や地域での子育て力の低下、育児不安や負担の増大等）がある中、市内8か所に地域子育て支援拠点を開設</p> <p>(3) 発達支援 ライフステージを通して一貫・継続した支援体制 市独自のスマイルブックを活用して幼児期から成人期まで途切れのない専門支援を実施</p> <p>(4) 子育て日本一に向けて 主な独自施策（エンゼルサポーター、家庭訪問型子育て支援ホームスタート、親子バス利用支援、多胎家庭おでかけアシストタクシー、出産祝金の支給、高校生世代まで医療費の助成、養育費手続支援、水都っ子ウィーク、多様な情報発信）</p> <p>(5) その他 資料（スマイルブック、子育てハンドブック、移住・定住ガイド等）</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>子育て家庭をはじめ、地域、市民、行政とで『子育て日本一』を目指した各種施策を展開している岐阜県大垣市を視察させていただいた。</p> <p>(1) 幼児教育においては、共働き世帯、母親の早期社会復帰や核家族化という状況が増えている中、多様なニーズに対応するため、全国的に問題となっている保育士不足対策として、潜在保育士復帰支援セミナーや新たに保育者になる方のために就職準備費用や住宅費用を補助する保育士確保推進事業について、保育士の夢を育てる環境づくりは社会全体で考えていく内容だと感じた。</p> <p>(2) 幼児期から成人期までライフステージを通して一貫・継続した支援体制をするためのきめ細かく作成された独自のサポートブックや、サポートブックをより活用してのプロジェクト支援チーム事業、また発達に関して療育を早く進めるための5歳児検診は長期的な支援の見通しがわかりやすいと感じた。</p> <p>(3) 全ての施策に関する評価や改善についても子育て支援会議という形で実施することで、支援する側、支援される側と、理想により近づく体制を整えているように感じた。</p>

	<p>子供の幸せを第一に考えている大垣市。</p> <p>今年の言葉は『共創』</p> <p>多様な立場の人達と対話をしながら市民一人一人のニーズを汲み取り、他人事ではなく自分事として取り組む大垣市に近づけるよう、政策提言していきたいと感じた視察であった。</p>
--	--

文教厚生常任委員会委員 松 永 靖 恵

日 時	令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <p>・こども若者総合相談支援センター</p>
視 察 概 要	<p>【こども若者総合支援センターの取組について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊橋市の概要（人口、面積、生活保護者数等）について 2. 組織図（こども若者総合相談支援センター体制）について 3. 妊娠・出産、子育てから自立までの切れ目のない相談支援体制を構築するためのセンター設置までの経緯について 4. ココエール相談（件数、職員体制、実態の把握）について 5. 支援・取組（要保護児童対策地域協議会、こんにちは赤ちゃん訪問事業、怒鳴らん子育て講座、ケアリーバー支援、ヤングケアラー支援、関係機関研修会、居場所支援等）について 6. 補足（民間委託ホームスタート事業、要支援家庭ショートステイ事業、若者総合相談窓口）について 7. 子ども・若者総合相談の特長について 8. これまでの取組の振り返りについて 9. 資料（ヤングケアラー向けガイドブック、ココエールパンフレット）
所見及び所感	<p>全国的に多様化、深刻化している子供と若者の支援の在り方について、愛知県豊橋市へ視察に伺わせていただいた。</p> <p>(1) 和光市は現状、年齢区分で担当課ごとの支援をしているが、こども若者総合相談センターでは、0歳から40歳未満の方の相談、支援等を組織として統一しているので、必要な情報の助言</p>

	<p>を共有できると感じた。</p> <p>(2) 職員体制についても社会福祉士、臨床心理士等の専門職が配置され、支援力の力強さを感じた。</p> <p>(3) 近年、児童虐待が増加している中、要保護児童対策地域協議会のメンバーに警察が入っていることで情報も早く、事故を未然に防げることは子供を守るには必要だと感じた。</p> <p>(4) 児童相談所・児童養護施設からの退所時においても、18歳までの支援は普通だが、市から食糧を宅配、家庭訪問等により生活状況確認等を40歳未満まで援助していく拠点は自立に向けて必要だと感じた。</p> <p>(まとめ)</p> <p>成長期において環境によって移行する過程の中で、児童福祉法や子ども・若者育成支援推進法に基づく必要な情報、適切な助言、相談援助することで子供たちが自立し、社会生活を送れることへの取組は、和光市でも重層的支援体制を構築し、関係機関の連携については政策提言していきたいと感じた。</p>
--	---

文教厚生常任委員会委員 吉田 活世

日 時	令和5年10月3日(火) 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	<p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>・子育て日本一を目指した各種施策について</p>
視 察 概 要	<p>子育て日本一を目指したまちづくり。</p> <p>出生率は低下しているが、毎年1,000人前後が誕生している。そこで、大垣市子育て支援条例を柱に、子育て日本一というスローガンを掲げて独自施策を打ち出した。バスに乗車する際のチケットを配布する親子バス利用支援、親の都合や病気などの時に家庭に出張し家事や子育てをサポートするエンゼルサポーター、家庭訪問型子育て支援ホームスタート等がある。</p> <p>また、発達障害に対する支援には7.5億円を充て対応。5歳児検診の実施や保育機関と連携し対象となる児童を見つけ、親が発達障害への理解や接し方を学べる講座やトレーニングを受けられる環境を作っている。一貫した支援を実現するために『スマイルブック』を作成し、</p>

	<p>保健センターから園、学校、医療機関などの取組を貯蓄し共有する、本人が小・中学校の入学前に『スマイルブック引継ぎ会』を実施。同時に、家庭や学校に専門職を派遣して、本人の周りの人々を支援する体制が整えられている。また、発達障害に関するパンフレットを作成し、啓蒙活動を図り、地域全体で子供の成長を見守れる体制をつくっている。</p> <p>保育ニーズの高まりに対応するべく、保育士確保推進事業をスタート。就職準備金、引っ越し費用の補助、アパート入居費の補助として合計最大 25 万円を貸与でなく支給している。同時に資格保有者の復帰を後押しする試みとして潜在保育士復帰支援セミナーを行い、13 回実施し 47 人が参加、内 15 人が実際に就職した。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>以前保育士の方とお話したとき、発達障害の子供の多さとその対応の難しさを話されていたが、本人、親そして周囲の人々と周知がされ、対応が共有される必要があると感じた。また昨今は離婚も増えており、シングルで子育てをしていたり、両親がそろっていても核家族で親類が周りにいない場合も多い。市全体で子供を育てる、というスタイル、概念は少子高齢化の社会でこそ実現されるべきと感じた。</p>

文教厚生常任委員会委員 吉田 活世

<p>日 時</p>	<p>令和 5 年 10 月 4 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分</p>
<p>視 察 先</p>	<p>愛知県豊橋市</p>
<p>視 察 目 的</p>	<p>特定事件 8 社会福祉の推進について 特定事件 9 児童福祉の推進について 特定事件 20 青少年健全育成について ・こども若者総合相談支援センター</p>
<p>視 察 概 要</p>	<p>ココエールは、子供若者へココからエールを送るとのメッセージを込め命名。妊娠から自立までを複合的にサポートする目的で設立。設立の背景のひとつには、虐待による 4 歳児死亡の事件がある。早期に対応ができなかった原因を究明した結果、保健センター、市役所、学校間での情報共有ができておらず、何度かあった救済のチャンスを逃してしまったことが明らかとなった。このことを教訓とし、子ども未来部の管轄のもと、市民共創部、福祉部、健康部、教育委員会と協力し運営する現在のスタイルを確立している。また、虐待案件に関する</p>

	<p>会議には警察も参加することで、事件の現場を踏んだ立場からのアドバイスを受けられる環境を整えている。対象となるのは赤ちゃんから30代までの若者、そしてその御家族など。現在、相談数は増加傾向にあり、その多くは児童または青年期の子供が占めているが、男女別で見ると女性からの相談は全体の50.6%を占めており、老年期に入った母親から引きこもりの子供に対する相談が寄せられるケースが多くみられる。</p> <p>現在、センター設置から5年が経過。様々なケースに対する対応が順調に貯蓄されてきている。相談量の増加を重く受け止め、次年度は正規の職員を増員予定。また、専門職は二人から配置をし、職員の孤立化やその他の問題を防ぎ、迷った時の相談や他業種の人間との交流を図りやすいよう配慮し、業務の真の効率化に努めている。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>発達障害、ヤングケアラー、引きこもりといった問題は長期間を要するものであり、ココエールのような取組は必要だと感じた。また、縦割りになり、横のつながりがなくなってしまう多くの組織に対するよいモデルケースだと感じる。特に虐待に対する対応は行政機関、学校組織、警察、医療機関の連携が欠かせない。また、専門職の人数の多さと雇用の仕方も学ぶところがあった。</p>

文教厚生常任委員会委員 萩原圭一

<p>日 時</p>	<p>令和5年10月3日（火） 13時30分～15時30分</p>
<p>視 察 先</p>	<p>岐阜県大垣市</p>
<p>視 察 目 的</p>	<p>特定事件9 児童福祉の推進について ・子育て日本一を目指した各種施策について</p>
<p>視 察 概 要</p>	<p>大垣市は岐阜県南西部に位置し、面積約206km²、人口約16万人のまちである。『子育て日本一を目指した各種施策について』</p> <p>(1) 保育園・幼稚園・認定こども園など・・・核家族化・共働き増加による2歳以下の保育ニーズへの対応、保育士確保のための費用補助（就職準備金10万円など）、保育業務支援システムなど</p> <p>(2) 地域子育て支援拠点・・・中核となる駅前の子育て支援センターや市内6か所の保育所の子育て支援センター（相談・支援、情報提供、交流の場、一時預かりなど）→ 母親を孤立させない取組</p> <p>(3) 発達支援・・・発達支援費として7.5億円（成人期まで切れ目</p>

	<p>のない支援、スマイルブック、相談会、各種講座、園・学校への訪問支援など)</p> <p>(4) 子育て日本一を目指した各種施策・・・子育て支援条例、エンゼルサポーター(家事・育児の補助)、移住支援・住宅取得補助金、小学校6年生まで親子バス無料、高校生まで医療費無料、子育てアプリ(年齢に合った情報提供が可能)、子ども食堂を運営する団体への補助金20万円、子育て支援会議で施策の評価・改善など</p>
所見及び所感	<p>地方で少子高齢化が急速に進み、人口が減少していく中で、いかに子育て世代を呼び込むか、各自治体が知恵を絞っているところである。大垣市は子育て日本一を目指して各種施策を充実させているが、それでも転入と転出はほぼ同数で、継続的な転入超過には至っていない。一方で、出生数が急激に減っている上に死亡者数は増えているので、市全体の人口は減り続けている。駅前通りはほとんどの店舗でシャッターが閉まったままで、人通りはまばらで閑散としており、少子高齢化と人口減少の影響を感じざるを得なかった。自治体レベルの施策には限界があるので、やはり国レベルで社会変革につながる仕組みづくりを着実に進めていかなければならない。</p>

文教厚生常任委員会委員 萩原圭一

日 時	令和5年10月4日(水) 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <p>・こども若者総合相談支援センター</p>
視 察 概 要	<p>豊橋市は愛知県東部に位置し、面積約262km²、人口約37万人の中核市である。こども若者総合相談支援センター『ココエール』は、児童虐待・不登校・いじめ・非行・ひきこもり・家庭内暴力・就労など、子供・若者のあらゆる問題に対処する『子ども家庭総合支援拠点』であり、豊橋市の『子ども未来部』に属するひとつの部署である。</p> <p>豊橋市では過去に連携が不十分で、家族の居住実態を把握できず虐待死亡事件が起きてしまったことを教訓として、平成29年にセンターを開設した。豊橋駅から徒歩10分ほどの立ち寄りやすい立地で、</p>

	<p>母親からの相談が半数を占めるという。相談件数が増え続けており、職員を増員しながら現在 25 名体制。臨床心理士、社会福祉士、保健師など有資格者を複数名配置し、専門性を高めている。</p> <p>その他に、民生委員による赤ちゃん訪問、不登校のための定時制・通信制高校の合同説明会、ホームスタート事業（NPO 団体に委託）など。中核市として児童相談所の設置も検討中である。</p>
所見及び所感	<p>児童虐待を把握するために、『要保護児童対策地域協議会』の実務者会議を月 1 回開くとともに個別ケースの会議を開き、経過を観察する対象児童や妊婦など 300 人の支援方針を協議しているという。児童相談所や警察、民生委員などと綿密に連絡を取り合っていることがわかった。少人数の判断だと虐待を見逃してしまうので、様々な立場の人の目で状況を判断するのは重要だと思う。地域の関係が希薄になっている現代では、弱い立場の子供を虐待から救えるのは行政しかない。痛ましい事件が後を絶たないが、事件が起こってからでは遅い。行政はあらゆる手段を使って早期に虐待を把握し、子供の保護に全力を尽くさなければならない。また、子育て世代包括支援センターなどによる支援を充実させることが、虐待の予防にもつながる。</p>

文教厚生常任委員会委員 菅 原 満

日 時	令和 5 年 10 月 3 日（火） 13 時 30 分～15 時 30 分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	<p>特定事件 9 児童福祉の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て日本一を目指した各種施策について
視 察 概 要	<p>○平成 22 年に、「子ども一人ひとりが健やかに育つことは、市民の願い」として、「子育て日本一のまち」を目指し、大垣市子育て支援条例を制定した。</p> <p>○3 歳未満児への保育ニーズが増大。保育士不足対策として、「保育確保推進事業（転入し保育者になる方を対象とした引っ越し費用助成）」、「保育者スタート応援事業（新規保育者の就職準備費用助成）」、「潜在保育士復帰セミナー」を行っている。</p> <p>○発達支援として、スマイルブックの作成・配布を行っている。</p> <p>○発達支援グループで対応しており、4 歳児全員にアンケートの実施・5 歳児検診へつなげている。「ライフステージを通して一貫・</p>

	<p>継続した支援体制」として途切れのない専門支援を行っている。また、園・学校への訪問支援を行っている。(学校教育課と連携している。)</p> <p>○医療的ケア児の養育保育に向け、看護師の配置に向けて取り組んでいる。しかし、人材の確保が難しいものとなっている。</p> <p>○ファミリーサポートセンター、家庭訪問型子育て支援ホームスタートとともに、市独自で「エンゼルサポーター」制度として、小学生までの家事・育児の援助を行っている。</p> <p>○子育て世帯へのお出かけ支援として、「親子バス利用支援(平成28年のスタート後、利用条件を拡大してきている。)」及び「多胎家庭お出かけアシストタクシー(24,000円、1,000円×24枚、満1歳まで。)」を行っている。</p> <p>○多様な情報発信として、子育て応援アプリ・おおがき子育て応援メール・おおがきメール配信サービス・子育て支援ポータルサイト・子育て応援サイトママフレ・水都っ子(ハンドブック)により、子育て世帯の育児不安や孤立感の解消・軽減を図っている。</p> <p>○離婚後、元配偶者から養育費が払われず、ひとり親世帯が経済的に厳しい状況に置かれることから、公正証書や調定調書などの作成経費に対する補助金交付を令和4年度から開始した。</p> <p>○子育て支援会議において、施策の評価・改善を行っている。</p>
所見及び所感	<p>●子育て支援の条例制定を基に、庁内連携により多種多様な子育て支援の取組に向けた施策展開、特に発達支援では、プロジェクトチームの取組から支援を積み上げてきている点は大いに参考となった。</p>

文教厚生常任委員会委員 菅 原 満

日 時	令和5年10月4日(水) 10時00分~12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <p>・こども若者総合相談支援センター</p>
視 察 概 要	<p>○妊娠期から若者期(0歳から39歳までを対象)の「こども若者総合相談支援センター”ココエール”」は、『児童福祉法に基づく子ども</p>

	<p>も家庭総合支援拠点と子ども』と『若者育成支援推進法に基づく子ども・若者総合相談センター』とを一体的にした総合的な相談支援拠点である。市の組織としては、子ども未来部に属する。</p> <p>○センター設置までの経緯としては、児童福祉課で「要保護児童対策地域協議会」を設置、また、教育委員会で平成 22 年度に「子ども・若者支援地域協議会」を設置していた。</p> <p>平成 27 年度に機構改革で、両相談機能を所管するとしたが、相談窓口の並立での現場での混乱から、相談窓口の集約化や役割分担の明確化が課題となっていた。</p> <p>○そこで、平成 28 年の児童福祉法の改正により、子ども家庭総合支援拠点の整備が努力義務となったこと、要保護児童の出口支援や不登校、ひきこもり対策の必要性の高まりもあり、相談窓口の一体的整備、独立した相談組織を持つとともに、庁舎外に施設整備を行い相談支援拠点として取り組むこととなった。</p> <p>○現在の体制は、センター長（課長）、副センター長（課長補佐）、要保護児童グループ（正規 6 名、会計年度 6 名）・庶務担当（正規 2 名、会計年度 1 名）、心理グループ（正規 3 名、会計年度 1 名）、支援担当（民間委 3 名）となっており、年々増員してきている。</p> <p>○児童虐待において、居住実態が把握できないままの死亡事例が過去にあったことから、児童手当などのシステム上での把握といった各所管などの情報の共有を大切に対応している。</p> <p>○ケアリーバー（施設退所児）支援として、食糧支援、離職・就職の相談対応を行っている。</p> <p>○行政のみならず、支援に関しては民間組織との連携を行っている。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>●複数配置は、自治体規模によるとの指摘もあったが、専門職の複数配置により、相談体制を整えることは大切な点と認識をした。</p> <p>●子供・若者に対する相談の集約や蓄積、職員の専門性向上という点は、職員数の少ない和光市において、専門職配置や専門性の向上については、検討していく課題であると認識をした。</p>

日 時	令和5年10月3日（火） 13時30分～15時30分
視 察 先	岐阜県大垣市
視 察 目 的	特定事件9 児童福祉の推進について ・子育て日本一を目指した各種施策について
視 察 概 要	<p>大垣市は、子育て支援を「子育て日本一」の柱として位置づけ、様々な独自施策を展開している。</p> <p>●家庭のニーズに合わせた支援</p> <p>エンゼルサポーター事業：家庭訪問型の子育て支援</p> <p>親子バス利用支援：子供と親の移動を支援</p> <p>多胎家庭おでかけアシストタクシー：多胎児家庭の外出を支援、経済的な負担の軽減</p> <p>出産祝金：第3子以降の子供に5万円を支給</p> <p>子ども医療費の助成：高校生世代までの子供の医療費を助成</p> <p>●子育て環境の整備</p> <p>子ども食堂の支援：子ども食堂の運営団体への補助</p> <p>水都っ子ウィーク：子供の幸せを第一に考え、子供と過ごす時間を大切にするイベントの開催</p>
所見及び所感	<p>本視察により、大垣市の子育て支援政策について、その概要や具体的な取組を理解することができた。人口減少等の大垣市の課題の中、子育て支援政策を通じて、社会減、自然減を回避しようとしているが、成果としてはいまだ明確には表れていないと感じた。</p> <p>子育て支援がすべてを担っているのではなく、まちづくり等を通じて、多面的な支援を行っていく必要があると強く感じた。和光市の人口規模の約2倍でありながら、議員定数を22人まで削減しており、議会改革の取組では先進的であると感じた。これらについては、最大会派が12人と過半数を取得していることが議会改革の前進に大きく寄与していると感じた。早計な議員定数の削減は危ういと感じるが、一方で近年のICTの活用により、議員がより市民の声を広く拾い上げることにより、議員定数削減の余地はあると考える。</p> <p>これらを通じて、和光市においても、最適な議員定数等も模索していく必要があると感じた。</p>

日 時	令和5年10月4日（水） 10時00分～12時00分
視 察 先	愛知県豊橋市
視 察 目 的	<p>特定事件8 社会福祉の推進について</p> <p>特定事件9 児童福祉の推進について</p> <p>特定事件20 青少年健全育成について</p> <p>・こども若者総合相談支援センター</p>
視 察 概 要	<p>豊橋市における子ども若者支援センター「ココエール」について視察を行った。</p> <p>ココエールは、0歳から40歳未満の子供や若者及びその家族に関する相談に応じ、その健やかな暮らし、伸びやかな未来を一緒に考えながら、一人ひとりの困りごとに寄り添ったサポートを行う「子ども家庭総合支援拠点」と、子ども・若者育成支援推進法に規定される「子ども若者総合相談センター」の両方の機能をもつ複合的な相談窓口である。</p> <p>相談件数については開設から約5年で、児童相談件数は1,188件から2,337件、こども・若者相談者数は495人から808人とそれぞれ約2倍弱程度まで増加させている。</p>
所見及び所感	<p>現在、朝霞市に児童相談所が建設予定となり、これから和光市においても様々な児童虐待のケースに対して、市で対応すべきか、児童相談所に依頼を行うべきか等の判断に迫られることが多くなることが予想される。</p> <p>このような和光市の現状において「ココエール」での取組は非常に先進的であり、学びとなるが多かった。</p> <p>要保護児童対策地域協議会では、警察を交えて、虐待が疑われる児童に対して適切な支援ができるよう議論が行われている様子を動画で拝見した。動画において実際の議論を拝見することができ、児童の虐待初期対応について理解が深まったと感じた。</p> <p>一方で、「ココエール」の取組においても、人材確保・育成の課題や、児童福祉法改正に伴う児童福祉・母子保健を一体化した相談機関の設立など、課題もある。これらの課題等も踏まえた上で、和光市においても、人口規模や市の実態に合わせて、取組をより改善した形で行われることが必要だと強く感じた。</p>